

日本パワーリフティング協会の大会開催における  
新型コロナウイルス感染対策に関する運用ガイドライン

令和2年5月10日

(公社) 日本パワーリフティング協会  
アンチ・ドーピング委員長 蜂須 貢  
技術委員長 二宮 正晴

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が拡大しており、緊急事態宣言、スポーツ施設の使用禁止等が発令されており大会開催に支障をきたしています。今後、感染の拡大が減少傾向に転じた時には発令が解除され都道府県の間での移動自粛などの制限がなくなった場合、大会の開催は可能となります。この状況下での大会開催における感染対策に関する運用のガイドラインを以下に示します。

全般：

選手、補助員、会場進行係、審判、陪審員等会場に入場する全ての人はマスク等を着用し、手洗いをこまめに行う。

大会会場：

1. 入場時に手のアルコール消毒及び検温を行い、体温37.5℃以上の人は入場不可とする。
2. 手でドアノブに触れないで良い様に会場のドアは開放しておく。
3. 窓は開放する(密閉を防ぐ)。
4. 天井に向け大型扇風機等で風を送る(密閉を防ぐ)。
5. ラウンド(グループ)単位で時間的に余裕を持った進行にて、競技の時間帯の選手だけが体育館(競技場)に居るように分ける(競技終了後の選手は速やかに帰宅させる)。
6. 役員席、放送係席は、人の間隔を2m程度の空間分離を行う。  
アナウンスは、試技表を受け取らず、グッドリフトシステムで対応する。  
※空間分離が物理的に困難な場合は、臨席を段ボール等で間仕切りして対応する。
7. 無観客とする(密集を防ぐ)。

検量：

1. 個室等の3密となる状況で検量を行わない(男女とも)。衝立等で仕切るなど、人目に触れないようプライバシーに配慮した上で隔離し体育館(競技場)内の適切な場所で検量する。
2. 仕切られた中には検量する人と選手のみとする。
3. 秤は都度アルコールや希釈塩素系漂白剤(ハイター等)で拭く。

ウォーミングアップ場：

1. 十分な広さを確保し、密集しないようにする。
2. 器具(プレートやシャフト)は都度アルコールや希釈塩素系漂白剤(ハイター等)で拭く。
3. 次の競技の順番を待つ選手のみウォーミングアップできるようにする。

※① 順番を待つ選手の間隔は2m程度空ける。

② フルギア競技で、アップ時にラップ巻き等のセコンドが必要な場合は、順番待ち3人前の選手のセコ

ンドのみアップ会場に入る事が出来、アップ時のプレート脱着補助を終えたら、速やかに退場する。  
 4. 選手（フルギアはセコンド）はマスクと滑り止めの軍手を着用してウォーミングアップする。

競技ルール：

以下の特別ルールを採用することができる。

1. フルギアの場合はセコンドがいないとコスチュームの脱着ができないので1人つける。ノーギアはセコンドがいなくてもできるのでなしとする。

競技中：

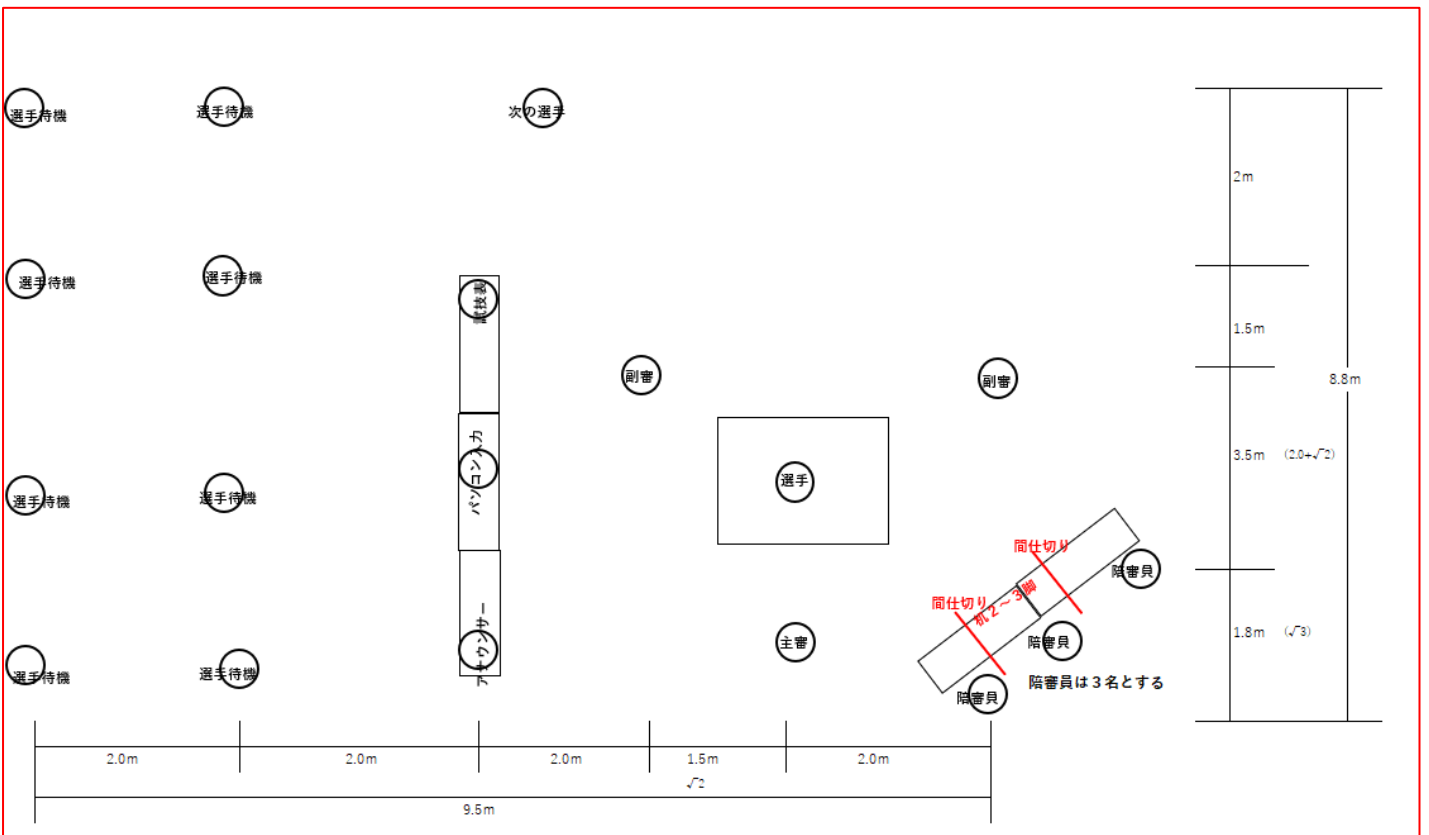
1. 審判、陪審員等全ての役員はマスクおよびディスポーザブル手袋を着用する。
2. 主審はマスクに加えフェイスシールドを着用し、号令をかける際に飛沫が飛び散らないようにする。
3. 選手はマスクを着用したままで試技を行う。
4. 補助員は全員マスクとフェイスシールドおよび滑り止め付き軍手を着用する。ベンチプレス時のセンター補助以外の競技の補助は、原則プレート脱着のみとする。その代わりに、セーフティバー高さの精度を上げることで安全性を確保する。ベンチプレスの場合はブリッジをしないで仰臥位になり、シャフトが胸を押しつぶさない高さ、スクワットの場合はスクワットの姿勢でしゃがんで、シャフトがセイフティバーに触れない高さに設定する。

※但し、潰れたり、緊急な場合は補助員が速やかに対応する。

補助員数：4名（プレート脱着2名、センター補助、ラック&セイフティバー調整各1名）

5. 従来はセーフティバーにシャフトが触れると試技は無効になりましたが、今回は無効としない。  
 ※但し、明らかにセーフティバーバウンドを使用した試技は反則とする。
6. 選手の待機場は2m程度の間隔をもって座れるよう椅子を配置する。
7. シャフトは都度アルコールや希釈塩素系漂白剤（ハイター等）で拭く。
8. タンマグは用意しない。自身で必要とする場合は液体の滑り止めを用意してもらう。これは、コスチュームチェック時にチェックする。

《配置図（参考）》



以上